

## 平成 30 年度南予地方局予算の実施状況 (H31. 3. 31 現在)

- 1 予算事項名 南予地域ぶどう産地力向上促進事業費
- 2 事業期間 平成 30 年度～令和元年度
- 3 所 管 産業経済部八幡浜支局地域農業育成室大洲農業指導班
- 4 事業概要

大洲喜多地区は質、量ともに県下一のぶどう産地であり、中山間地域における重要な経営品目となっている。しかし、栽培では基幹品種ピオーネの着色向上、シャインマスカットの高品質化の問題があり、販売面では冬季出荷による新たなブランド製品の開発等を行う必要がある。これらの課題を解決することにより産地力を向上し、ぶどう産地の維持発展と中山間地域農業の活性化に資する。

	平成 30 年度
予算額	713 千円

### 5 30 年度の事業実施状況

#### (1) 産地力向上検討会の開催 (年間 3 回予定)

地域の主要品目であるぶどうの産地力強化を図るための対策ならびに事業の推進方法について協議した。構成メンバーは生産者、JA愛媛たいき、内子町、県(農産園芸課、果樹研究センター、八幡浜支局地域農業育成室・産地戦略推進室)。

##### ①第 1 回：5 月 14 日

事業概要の説明、課題に対する実証計画案について協議した。

##### ②第 2 回：7 月 30 日 (現地検討会)

収穫前のピオーネ現地実証圃で開催し、環状剥皮とマルチ敷設効果について着色状況を確認し、意見交換した。

##### ③第 3 回：12 月 12 日

シャインマスカットの冬季出荷技術として検討した、フレッシュホルダー (給水器) ・果実袋・ビニル袋の有無で分けた貯蔵果実の状態確認と試食を行った。また、次年度の試験について検討した。

#### (2) 高品質生産技術実証調査

ピオーネの着色促進技術実証として、環状剥皮とマルチ被覆を行った (2 園地)。環状剥皮の効果を確認できたが、癒合が早すぎたため効果が低下する課題が残った。マルチの効果は相加的と分かった。

シャインマスカットの品質向上技術実証として、マルチ被覆と果実袋色の比較を行った。茶色袋でかすり症が発生しやすく、青色袋で糖度が上がりにくかった。

#### (3) 冬季出荷技術実証調査

シャインマスカットの長期貯蔵技術実証として貯蔵時期、方法、袋の比較を行った。フレッシュホルダーの有効性、外観・果実品質ともに良好であることが確かめられた。しかし、ビニル袋との組合せでは腐敗果が多発した。

12 月中旬に、フレッシュホルダー + 果実袋で貯蔵していた果実 427kg を 2 回に分けて出荷した。貯蔵果実のキロ単価は、ハウス栽培されたもの (8 月上旬ピーク) を上回り、令和元年度は量を増やして貯蔵試験等を行っていく。



写真 1 第 2 回検討会



写真 2 幹への環状剥皮



写真 3 フレッシュホルダー装着